

そらこめ通信 No.47 2014.06発行

日頃より弊社のコメをお買い上げいただき誠にありがとうございます。心よりお礼を申し上げます。
暖かい日が続いたかと思えば、一転肌寒い日が続く不安定な天候の5月でしたが、農作業は順調に進んでいます。4月後半から5月初めにかけては、育苗ハウスの中でぐんぐん伸びる苗を見守りつつ、畦畔の手直しや水路の補修作業を行いました。田起こしは連休明けから開始。その後肥料を蒔き、水入れとともに代かきを行いました。5月21日から田植えが始まりました。田植えに関しては言えば昨年の開始は5月26日、過去のブログ(生産日誌)を読み返すと昨年は雪解けが遅かったようで、圃場に残った雪をゴールデンウィーク後半から除雪機で飛ばして田起こしを始めたとの記述があります。1年経つと全く記憶がない…。困ったもんです(笑)。でも、こうしてブログに残しておくとか何とか便利です。

今年の春に新しい田植え機を導入しました。機械の性能が上がったことも含め田植え作業には8日間を費やし、5月28日に無事終了しました。いつも思う事ですが、農業用の機械ってどうしてこんなに高いのかな。農業に関しては、就労人口の減少と高齢化、後継者難が挙げられます。他方、農家一戸当たりの耕作面積は増加し続けていて、そのほとんどを機械に頼らなければ農業を継続できないのが現状です。いわば農業用機械は農家の必需品。農業は立派な機械産業なのです。値段の高い農業機械を使って利潤を生み出すためには、ある一定の規模を超える必要があります。但し、その際にはいくつかの選択肢があるのですが、それを書き始めると長くなるのでやめておきます。ひとつだけ言えることは、水稲栽培は畑作と違い手間が多くかかるということ。とくに、旨いコメを作る場合には決して省略できない工程があるのです。そこを理解して頂ければ作り手としてこれほど嬉しいことはありません。



畦畔に落ち口樹を取り付ける作業(4月28日)



この樹の名前は「落ち口姫」です



海外の稲作事情に関する講習会(4月30日)～カリフォルニア米の試食(左)講師の市川さん(中)と参加者たち(右)



水路の補修作業(5月3日)



田起こし(5月7日)



肥料散布(5月8日)



壊れたトラフの入れ替え(5月9日)



代かき作業(5月12日)



昨年秋に一旦取り外した電気牧柵(通称、電牧)の電線を雪解け後に再設置しました(5月13日)



5月21日から田植えが始まりました(5月23日撮影)



田植え機による苗の移植の様子



今年の春に入れた新しい田植え機です 田植え開始から3日目～ハウスには出番を待つ苗たちがいました(5月23日)

今年も、鹿との攻防戦が始まりました。最近鹿の数が増えていて圃場の近くで頻繁に見かけます。彼らにとって移植した苗は絶好の食料、穂が出るまでの間放っておくと圃場に入り込み中を荒らします。彼らも必死ですがこちらにも必死。昨年、この地区の農家33戸で電気牧柵を設置しました。農地の周辺を囲む延長28キロのこの電気牧柵、冬は一旦取り外すなど維持が大変ですが鹿の被害から農地を守るためには仕方ありません。これからも安全で美味しいお米の生産に努めますので、引き続きご愛顧のほどよろしく願いたします。

インターネットで美味しいお米♪

(株)空知こめ工房 ホームページ
<http://www.sorachi-kome.jp/>
ブログ「生産日誌」更新中です